

私が受験勉強で意識したこと

— 一級建築士 —

1. はじめに

私の合格体験記を通じて、これから受験する方、特に結果がなかなか出ない方や勉強時間が十分に確保できない方に、少しでも勇気を与えることができれば幸いです。

私が受験勉強を始めたのは29年夏頃、地方整備局営繕部での実務を通じて知識不足を実感し、基礎的なことからしっかりと習得したいと思ったことがきっかけでした。

受験にあたり、広範囲に渡る試験を効率よく学習するため、学科対策から予備校に通うこととしましたが、30年4月に本省総合政策局に異動になると毎日夜中に帰宅、私生活でも結婚・引越などでバタバタし、成績は全く上がりませんでした。本試験1ヶ月前の模試では125点満点で70点程度（合格基準ラインは90点前後）しか取れませんでした。

そんな状況だったので、合格できたのは当日の調子がすこぶる良く幸運ただけではありますが、何とか受かるレベルに持っていくことができた私の勉強法や心懸けていたことについて書かせて頂きます。

2. 対策と傾向

1) メンタル面での対策

～良い精神状態の維持～

受験にあたっては、とにかく良い精神状態にいること、特に自分を追い込みすぎないこと、を意識していました。

よく自分にプレッシャーをかけてモチベーションを高める人がいますが、私の場合は過去大学受験で気負いすぎて失敗した経験があったため、家族に対して期待させるような発言はしないように気を付け、友人や職場の人にもあまり受験については公言しないようにしました。

また、よく「〇時間以上勉強すれば受かる」や「遊んだら受からない」などといった迷信めいたものを信じる人がいます。かくいう私も大学受験ではそういったものを信じストイックに自分を追い込み結果不合格、逆に周りで遊んでいたように見えた友人が受かっていったという経験から、何事も程良い余暇、息抜きが必要と考えるようになり、今回の受験では、休日の一日はなるべく余暇の時間としました。結果的に、余暇の時間をとることで、心にゆとりができ、勉強により身が入ったと思います。

2) 勉強面での対策

～全範囲平均以上を目指した基礎の徹底～

勉強面では、学科、製図ともに苦手な内容を無くし、基礎を徹底することを心掛けました。

学科試験では5教科それぞれに足切りがあるため、苦手分野をつくらないことが特に大事だと思います。私の場合、全範囲を網羅したできる限り薄めの問題集を繰り返し解き、徹底的に頭に叩き込みました。

製図試験では、最低限知っておかなければいけないことを一通り紙に書き出し、それらをひたすら覚えるという勉強からはじめました。具

体的には、建築計画・構造計画・設備計画等の記述問題の解答パターンや、防火設備の設置・延焼のおそれのある部分・直通階段までの歩行距離・歩行距離の重複区間・敷地内の通路・防火区画等の考え方などを紙にまとめ、試験直前まで通勤時間等で暗記しました。作図は通しては5回程度しか練習できていませんが、毎朝30分程度時間をつくり、断面図・面積表・階段・便所など各パーツに分けてフリーハンドで書く練習をすることにより作図の動きを身体で覚えました。製図において致命的なミスをせず合格できたのも、学科対策と同じように、わからないことを潰していき、網羅的に学習できていたからだと思います。

3) 全般的な対策

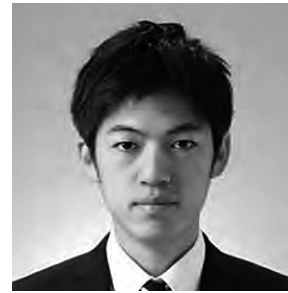
～試験に受かるための効率的な勉強を意識～

最後に、メンタル面、勉強面に限らず意識した、試験に受かるための効率的な勉強について書きます。

受験勉強を始めた当初は時間と気持ちに余裕があり、試験にあまり出そうもないことまで理解しようと努めていましたが、忙しくなってきたら資格試験の勉強と割り切り試験に受かるための勉強（よく出る問題から対策、自分の決めた問題集以外は一切やらないなど）に切替えました。また、予備校に通って勉強していてもインプットの時間が足りず受からないと思い、学科対策では試験の1～2ヶ月前から、製図対策では初回以降予備校に通うのをやめ、資料だけ貰い自習するというやり方に切替えました。結果的には、これにより十分なインプット時間を確保でき、合格につながったと思います。

3. おわりに

ここまで、私個人の対策や意識などについて



国土交通省 大臣官房官庁営繕部 整備課
技術管理係長

ふくだ はやと
福田 隼登

(取得した資格：一級建築士)
(資格取得年度：平成30年度)

書いてきましたが、私の場合、周りの支えあつての合格でした。職場の直属の上司には業務上の配慮をして頂き、試験直前に夏期休暇を取得させて頂きました。一緒に受験勉強をしていた同期には受験のライバルでもあるにも関わらず予備校の資料でわからないことを色々教えてもらいました。家族には平日ほぼ会えず休日も一日は勉強の日とさせて頂いてもらいましたが、文句の一つもなく支えてもらえました。製図試験中に諦めたくなるようなプランニングのミスに気づいた時に踏ん張れたのは、こういった周りの支えを絶対に無駄にできない、と思えたからだだと思います。支えて下さった皆様に改めてこの場を借りて感謝したいと思います。

受験は非常に大変ですが、それだけ合格した時の喜びも一入です。十分な時間が確保できなくても、結果がなかなかでなくても、最後まで諦めずに頑張ってください。